富士山出水之圖
天保五年甲午四月
七日夜より駿河の國
富士郡のかたの麓の村
大雨降出し同八日益
大風雨にて午の刻ごろ
より不二山震動いたし
頻に暴雨滝のごとく
不二の半腹五合
目あたりより
雪解水
一度にどろどろと
押出し昔の
水筋三道に
相分れ一筋の水巾
凡半里ばかり有之皆
泥水にて稲野村へ出
此未刻ごろより水勢
いよいよ盛んにて小山の如く
なる大浪打来りて裾野の在家
村々の建家皆押流し老若
男女のともがら家の棟に取付
或は木の枝にとりすがりなどして
声を限りに泣叫び牛馬のたぐひ繋し
侭に流れ来り溺死する者その
数をしらず既に大宮の町並家
毎に残らず流れ富士御林の諸木
長さ二丈三丈若くは四五尺までも有大木
根こぎになりて流れ来りて巌石を損じ小石を
ふらし震動雷電おびただしく今や天地も反覆
するかとおそろしく流るる男女の泣さけぶ声を
地獄の呵嘖に異ならん都て死人おびただしく
水の勢ひ流れて通り七八里其巾は廣さ二三里
に餘り彼是十二三里の間敗じ荒地となり
斯るめづらしき事の有べくともおぼえず
終に一紙に志るして後世に残しおく